

2. 取組を進めるに当たり困難であった事例について

A. コースワークの充実・強化

②分野横断的な科目群、副専攻科目群等の充実

●神戸女学院大学人間科学研究科人間科学専攻環境科学分野

「環境と健康のために行動する女性科学者養成」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

「大学院セミナー」の実施にあたり、セミナーの開催日時の調整に苦勞した。

(苦勞したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

基本的な原因は、「大学院セミナー」がカリキュラムに組み込まれていないため、大学院生にその時間を確保することができていないことによる。そのため、参加できなかった学生も存在した。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

できるだけ多くの大学院生が参加できる日時をコーディネーターが毎回調整することで対応した。あらかじめそのための時間枠を設けておけばよかったのかもしれない。

2. 取組を進めるに当たり困難であった事例について

D. 産業界、地域社会等多様な社会部門と連携した人材養成機能の強化

①国内外におけるインターンシップ・フィールドワークの充実

《理工農系》

●神戸女学院大学人間科学研究科人間科学専攻環境科学分野

「環境と健康のために行動する女性科学者養成」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

「インターンシップ」では大学院生の特性に応じた受入れ先を見つけることが簡単ではない。

(苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

受入れ先にも、また派遣する側も、それなりの負担がかかるため、恒常的に実施していくことが難しい。また、学生の研究分野等もさまざまであり、適切な受け入れ先を見つけることは困難である。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

特定の教員によるつながりによって受入れ先を依頼した。教員が全体として意識をもって取組むことでもう少し速やかな運営ができるようになったと思われる。